

平成29年度学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立工業高等学校

重点目標	具体的取組	担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び短期的(本年度中)改善策
1 生徒の主体的・協働的学習を推進し、アクティブラーニングの視点から、思考力や表現力、コミュニケーション能力の育成に努めるとともに、学習の成果を的確に評価することに努める。(学びのスタンダード、SPH事業の成果の継承推進)	① 県工学びのスタンダードを活用し、かつSPH事業の成果の拡充・継承を目標とすることにより、創意工夫されたわかりやすい授業を実践する。	教務課 各教科	「県工 Thinking time」などを通して、根拠を提示し論理的に主張できるようになったと回答する生徒の割合で判断する。 [改定] A 70%以上 B 60%～70%未満 C 50%～60%未満 D 50%未満	(教務課・各教科) 中間評価(C) 生徒対象の学校評価アンケート(前期)において、「根拠を提示し論理的に主張できるようになった」と「思う」7%、「やや思う」48%であり、肯定的な回答は55%であった。教務委員会を中心として、教師が、発問の仕方を工夫し「県工 ThinkingTime」を活用して、生徒が主体的・能動的に学習し思考を深める授業づくりを目指す。
	② 生徒の主体的な学習を確保し、学習習慣を身につけさせる。	教務課 各教科	予習・復習及び課題や資格取得に向けた学習等に取り組むことができたかどうかで判断する。 [新規] A 十分取り組めた B おおむね取り組めた C ほとんど取り組めなかった D まったく取り組めなかった	(教務課・各教科) 中間評価(B) 生徒対象の学校評価アンケート(前期)において、A:22%、B:54%、C:23%、D:1%であり、76%の生徒が取り組んだといえる。現在のところ、判定基準としたA+B評価70%は何とか達成しているが、予習・復習等の必要性を理解させ、資格取得への意識を向上させて学習を促す。
	③ 教師個人及び各教科にて積極的に主体的・対話的な学びを取り入れた授業改善に取り組み、新しい授業づくりに挑戦する。	教務課 全教員	生徒が主体的に活動することを意識して授業を行っているかどうかで判断する。 [改定] A 毎回行っている B 数回に1回程度行っている C 月に1回程度行っている D ほとんど行っていない	(教務課・各教科) 中間評価(A) 教師対象の学校評価アンケート(前期)において、A:41%、B:54%、C:5%、D:0%であり、判定基準としたA評価+B評価80%を大きく超える結果であった。 今後も生徒が主体的・能動的に学習し思考を深める授業づくりを意識して実践するよう働きかける。
	④ 授業の情報化および学力の定着が実感できる授業を目指し、ICT機器の活用を促進する。	学習情報課	ICT機器の活用等により授業が工夫されていると回答する生徒の割合で判断する。 [新規] A 70%以上 B 60%～70%未満 C 50%～60%未満 D 50%未満	(学習情報課) 中間評価(B) 1学期末現在、生徒を対象に授業評価アンケート(前期)において、ICT機器の活用等により授業が工夫されていると「思う」31%、「やや思う」31%であり、62%の生徒がやや思う以上の回答をしている。2学期以降、A評価70%以上を目指し、ICT機器の活用に係る研修を実施するとともに公開授業等において各教師に対して利活用を促していく。
2 将来の職業人としての意識の高い生徒の育成のため、規範意識やマナーの向上を目指す。(人間力スタンダード、校訓の活用)	① 校訓を掲げることにより、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的生活習慣を身につけた生徒を育成する。	生徒指導課 各学年	挨拶の励行に積極的に取り組もうと努力している生徒の割合で判断する。 [継続] A 95%以上 B 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満 前年比の減少の割合で判断する。(遅刻者数) [継続] A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	(生徒指導課・各学年) 中間評価(B) 生徒対象の学校評価アンケート(前期)において、「取り組んでいる」49%、「やや取り組んでいる」43%であり、合わせると92%であった。A評価には3ポイント及ばなかった。 授業、部活動、集会等を通じ、機会あるごとに挨拶の大切さを説き、挨拶の励行に取り組む姿勢の醸成・向上に努める。 (生徒指導課・各学年) 中間評価(A) 4月から7月の遅刻者数は前年比37%減であり、大幅に減少した。また、保護者対象の学校評価アンケート(前期)では、94%が基本的生活習慣や躰に対する指導が適切に行われていると思うと回答している。年間を通して学年、科、部活動顧問と連携を取り、さらに家庭とも協力して基本的生活習慣確立に向け、粘り強く指導を行う。
	周辺美化活動や除雪作業等のボランティア活動や県工モノづくりワールド等の地域との交流活動を通して地域に貢献する意識を育てる。	総務課	生徒が活動に積極的に取り組んだかどうかで判断する。 [継続] A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	(総務) 中間評価(A) 1学期末現在、生徒対象の学校評価アンケート(前期)において、周辺美化活動参加者のうち91%の生徒が「積極的に取り組んだ、やや積極的に取り組んだ」と回答し、地域貢献に肯定的な回答であった。県工モノづくりワールド後のアンケートでは99%の生徒が「積極的に取り組んだ等」と回答している。 今後は、地域貢献意欲を向上させるよう各ボランティア活動の趣旨を生徒へ周知し、積極的に取り組ませたい。
	② 交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。	生徒指導課 学年団	違反指導件数減少の割合を目標とする。 [継続] A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	(生徒指導・各学年) 中間評価(A) 今年度の自転車違反件数は、7月末現在で昨年度20件に対して9件であり、大幅に減少した。年間を通して、違反指導件数が減少するよう、全校集会、学年集会およびLHを通じ、自転車マナー向上へ粘り強く指導を行う。

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び短期的(本年度中)改善策
3 専門的技術の習得をはじめ、資格取得や検定、各種コンテストに意欲的に取り組み確かな進路実現を図る。(技能スタンダードの推進)	① 就職希望者が100%内定するとともに、第1社目受験での進路実現を図る。	進路指導課 3年学年団	就職希望者が1社目受験で内定した割合で判断する。[継続] A 90%以上 B 85%～90%未満 C 80%～85%未満 D 80%未満	(進路指導課) 中間評価(A) 1社目受験で内定した割合:94.7%(昨年同期95.9%) 就職試験受験者171名中、1社目受験での内定者162名(9月末時点)
	② 生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。	工業7科 教務課	認定者数(特別表彰+ゴールド+シルバー)で判断する。[継続] A 60名以上 B 50名～60名未満 C 40名～50名未満 D 40名未満	(教務課) 中間評価(D) 前期の認定者数は13名(ジュニアマイスターゴールド1名、ジュニアマイスターシルバー12名)であった(昨年同期17名)。後期に技能士等ポイントの高い資格試験が多い。そのため、後期の認定者数を含めて最終評価する。
	③ 全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。	工業7科	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会]の場合は、大会出場の難易度で判断する。[継続] A 全国大会でベスト16以上の成績であった。 B 全国大会に出場した。 C ブロック大会で入賞した。 D 県大会で入賞した。 ----- [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会]の場合は、出場した全国大会の成績で判断する。[継続] A 全国大会でベスト8以上の成績であった B 全国大会でベスト16以上の成績であった C 全国大会で初戦突破した。 D 全国大会に出場した ----- 各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。[継続] A 全国レベルのコンテスト等で入賞 B 全国レベルのコンテスト等で入選 C 県レベルのコンテスト等で入賞 D 県レベルのコンテスト等で入選	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会](工業7科) 中間評価(C) ものづくりコンテスト県大会 旋盤部門 2位(北信越大会3位) " 県大会 電気工部門 4位 " 県大会 電子回路組立部門 3位 " 県大会 化学分析部門 2位(北信越大会出場) ----- [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会](工業7科) 中間評価(A) 全国ソーラーラジコンカーコンテスト2017 in 白山 優勝 ----- 各種コンテスト、コンクール(工業7科) 中間評価(C) 愛鳥週間ポスターコンクール石川県審査入賞、環境月間ポスターコンクール石川県審査入賞
4 部活動や学校行事等、課外活動への積極的な参加を促し、たくましい体力と精神力、豊かな心を育む。	① 活発な部活動を通して、加入率と成果の更なる向上に努める。	生徒会課	各学年の部活動の加入率で判断する。[継続] A 95%以上 B 90%～95%未満 C 85%～90%未満 D 85%未満 ----- 県総体の成績等で判断する。(個人・団体あわせて)[継続] A 全国大会5部以上出場または総体順位男子2位以内 B 全国大会3部以上出場または総体順位男子4位以内 C 全国大会1部以上出場または総体順位男子6位以内 D 総体順位男子6位以下	(生徒会課) 中間評価(A) 全体で97.6%の生徒が部・同好会に所属している(昨年同期97.4%)。数年来、高水準の加入率が続いている。途中退部者が出ないように指導するとともに、途中退部者に対しては、他の部・同好会に所属し活動していけるような働きかけを継続する。 ----- (生徒会課) 中間評価(B) 全国高校総体には、男子バレー部、柔道部、ボクシング部が出場した。県総体学校対抗順位では暫定で男子6位(昨年3位)。男女総体で10位(昨年6位)。今年、全国大会に3部がが出場したが、県総体学校対抗順位は後退した。今後の各種大会で上位入賞に向けて努力する。
	② 学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切にし、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。	生徒会課	保護者の目から見て生徒が学校の行事に満足していると回答する割合で判断する。[継続] A 90%以上 B 75%～90%未満 C 60%～75%未満 D 60%未満	(生徒会課) 中間評価(A) 保護者対象の学校評価アンケート(前期)において、満足していると「思う」60%、「やや思う」36%であり、肯定的な回答は96%であった。今後も学校行事に生徒が主体的・積極的に取り組むよう支援する。
	③ 歯科保健指導を通し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。	保健課	歯科受診済の生徒の割合で判断する。[継続] A 30%以上 B 25%～30%未満 C 20%～25%未満 D 20%未満	(保健課) 中間評価(D) 8月末までの歯科受診率は14.4%であった(昨年同期12.9%)。歯科検診実施直後および7月の保護者懇談時の2回、文書による受診勧告を行ったが、昨年に比べ受診率はやや向上した。今後、保健室が中心となって、部活動顧問、学年団と連携し、個別指導を行うとともに他校の効果的な取組を参考にして受診率の向上を図る。